

に、天気分布、その地域的分布、更にスケールの小さい現象の生起する蓋然性について、組織的な手掛りを得ることができる。

予報者は自らの知識と多くの調査研究の結果を総合し、整理しつつ天気分布の予測体系を作ってゆかねばならぬ。

レーダーの予測への方法、つまり、より短時間の予測について論ずるにはすでに頁数の制限をこえるし、それについては別の識者が適切である。

文 献

- 1) 河村 武(1961): 北海道における冬季の降水分布の総観気候学的考察, 地理学評論, 34, 583-595.
- 2) 河村 武(1970): 中部日本における地上風系, 研究時報, 22, 475-481.
- 3) 岡林俊雄(1972): 温帯低気圧, 前線系の雲のパターン, 気象研究ノート 113, 37-73.
- 4) 立平良三(1971): 帯状エコーの生成, 維持に必要な総観場の条件, 研究時報, 23, 341-355.
- 5) 立平良三, 斎藤直輔(1973): 豪雨予報の一方法, 研究時報 (印刷中)

昭和48年度日本気象学会奨励金受領候補者募集

昭和45年度より、理事会は研究費、研究環境に恵まれない会員の研究を奨励するために、日本気象学会奨励金制度を設け、年間に10万円の総額を2件の受領者に贈与し、昭和47年度からは件数総額を拡大し、3件総額15万円を贈与することとしました。

本年度の受領を希望する会員、あるいは他の会員を受領者に推薦しようとする会員は、申請についての要綱にもとづき、下記の形式で応募あるいは推薦をして下さい。

昭和48年6月1日 日本気象学会理事長

締 切: 昭和48年7月15日 送付先必着

送付先: 〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4

日本気象学会奨励金選考委員会

用 紙: B 5 版 横書き

記入事項

1. 受領候補者氏名(ふりがな付)印, 生年月日, 勤務先および地位, 連絡先(郵便宛先, 郵便番号)
2. 研究題目
3. 研究経過概要と今後の研究計画(あわせて400字詰原稿用紙4枚以内)。印刷報告, 学会発表のあるものは, 題目, 雑誌名, 巻号頁年, あるいは題目, 学会名, 年月を記入し, また別刷, 図表, 写真等の参考資料があれば添付する。資料は原則として返却しない。

4. 受領候補者略歴

5. 推薦の場合は、推薦者氏名, 印, 勤務先および地位, 連絡先(郵便宛先, 郵便番号および電話番号)この場合は候補者の印は不要。

注) 共同研究については1件として候補者を連名で記入する。

奨励金申請についての要綱

1. 気象学, 気象技術の進歩に貢献し得る将来性, 発展性のある研究はすべて本奨励金の対象となる。完成度の高い研究であることは必要条件ではない。
2. 大学あるいは研究機関に勤務し, 経常あるいは特別研究費の配分を受けて気象学の研究に従事する会員は原則として, 対象から除外される。
3. 受領者の選定は, 奨励金受領者選定規定にしたがって, 理事長の委嘱する5名の選考委員によって行なわれ, 今年度の贈呈は10月29~31日仙台市で開催される秋季大会において行なわれる予定(受領者又は代理者が出席可能な場合)。
4. 受領者は奨励金受領後1カ年以内に簡潔な研究報告を理事長に提出する。

なお, 本奨励金について疑問は下記へ問合せ下さい。

〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学理工学部

北川信一郎 電話 0488-52-2111